

「私の祖母」

青垣中学校 三年 足立 美羽

みなさんは高齢の方についてどのような意見を持っていますか。自分の家庭に祖父や祖母がいる人は「何でも買ってくれるから、好き。」あるいは、「厳しいから好きではない。」など様々な意見があると思います。私には祖父と祖母がいます。祖母は私が幼いころから、「認知症」という病気です。「認知症」とは脳の病気や障害など様々な原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態のことを言います。「認知症」と聞けば、「物忘れがひどくなる。」という症状を思い浮かべる人が多いと思いますが、その他に「会話をしている話も噛み合わない。」「徘徊という自分の家から外に出て、あてもなくうろうろと歩き回る行動をする。」「幻覚」などたくさん症状があります。今挙げた認知症の症状は私の祖母に過去に出ていた症状・現在出ている症状です。その中でも過去にあった症状の「徘徊」と最近ひどくなってきた、「言葉や認識力の低下」について話したいと思います。

まず、「徘徊」についての出来事です。祖母は三度徘徊をしたことがあります。一度目と二度目は昼から夕方にかけての時間に起こり、まだ明るかったので警察の人にも協力してもらい、見つかりました。しかし三度目に起こったのは真夜中でした。真夜中だととても暗いし、もし山の中に入っていっていたら見つかるのは大変だからすごく不安な思いをしたのを覚えています。父と母、そして祖父が探し回って運良く青垣町内の道端で見つかりました。私は安心した気持ちもありましたが、これからどう対策をしていこうか悩みました。ドアは必ず閉める、鍵をかけていくなどをしてその日以来、徘徊は起こっていません。今は、祖母はドアの開け方や閉め方を分かっていないし、外に出ることへの関心が無くなっている所以徘徊が起こる可能性は低いですが、もしかしたらの可能性があるので祖父と祖母がいる部屋に祖母が一人になってしまう時祖父は鍵をかけています。

もう一つの「言葉や認識力の低下」についてです。最近話している話も噛み合いません。また人に話かけることもあります。食事の時にはコップに話しかけたり、やかんに話しかけたりもしています。私のことを母の名前で呼ぶこともあります。

私はこの二つの出来事を通して、もちろん一つ目の徘徊は不安になるし悲しくなることもありました。ですが、二つ目の出来事については悲しいと思ったことは一度もありません。もちろん、名前を忘れられることがあるので悲しくなる人もいるかもしれませんが。しかし認知症が治る薬は無いし症状の進行が速いか

遅いかなの問題です。だから私は毎日祖母と話すようにしています。話が噛み合わなくても話すことは楽しいし、祖母は歌が好きでよく歌ってくれるので盛り上がる時もあります。私の家族は、祖母に対して一人一人が祖母に合った接し方をしていると思います。これから、祖母の症状は間違いなく進行していきます。それに対して私たち家族が一つ一つの対応に工夫を入れて祖母も私たちも安心して暮らしていけるように考えていきたいです。私は祖母のことを温かく見守って、接している家族を誇りに思います。